

ガリレオ・ガリレイは、その生涯で多くの著書（あるいは書簡）を残しています。16世紀にヨーロッパで活字を用いた印刷技術が発達したことから、学者が自説を論文のかたちで出版することが多く行われるようになった時代でもあります。

ガリレオが望遠鏡を夜空に向けた際の驚きと発見を記した『星界の報告』は有名ですが、観測からさほど時間をおかずあっという間に書き上げ発表したようです（1610年3月はじめまでの観測が記載、3月中に出版された言われている）。また、その巻末では、木星のまわりの衛星（メディチ家の星）についての考察を展開しながらも「時間がないのでこれ以上先に進めない」とし、読者に対して、結論を待つように、といった記述で結んでいることから、かなり発表を急いだのだと考えられます。また、イタリア語だけでなく当時ヨーロッパで広く通じるラテン語で書かれたことも、彼のこの著書が広まった理由でしょう。

自説を広く伝えるために、文章（論文）は非常に重要な役割を果たします。今日、ガリレオの業績がこれほどポピュラーなのは業績そのものだけでなく、多くの著書があったことが重要な役割を果たしているのではないのでしょうか。

「書を捨てよ町に出よう」は寺山修司ですが、「科学者よ書を書こう」とガリレオは密かに言っていたかもしれません。（?）

世界天文年2009の イベント企画

世界天文年をきっかけに、何かイベントを企画・主催してみたいかでしょうか。天文学の魅力を伝えたり、天体を見るイベントはもちろん世界天文年にふさわしいものですが、それだけではなく、さまざまな立場の方が知識、経験、機材、技能を活かしてイベントを企画・実施できるようにヒントを盛り込んだのが本章です。アイデアと実行力で世界天文年を充実した楽しいものにしてください。

執筆 天文教育普及研究会